

楠原だより

百二十四年ぶりに

「立春」は二十四節気において「春」の始まりとされる日です。節分の翌日になります。この三十六年間ずっと、立春は二月四日だったのですが、今年は「一分差」で二月三日となったのだそうです。そもそも「立春」はいつかというところ、国立天文台の観測によって、「太陽黄経が三百十五度になった瞬間」とされています。その観測によると、今年の立春の瞬間は、二月三日二十三時五十九分(あと一分で二月四日)でした。ということは、今年の節分はこの二月三日の前日です。二月三日になります。節分が二月三日になるのは、実に百二十四年ぶりのことだそうです。

「豆まき」……

先日(二月二日)は、いくつかの学年で豆まきを行いました。代表的なものをご紹介します。実は今年は、昨年から大人気の「鬼滅の刃」のキャラクターが節分限定でお面にできるという取組がなされていました。ニュースで聞いたのですが、すぐに使えるよう印刷して各学級に紹介しました。子どもたちはそれぞれにお気に入りのキャラクターのお面をつくって豆まき

めざす児童像
思いやりのある子
楽しく学ぶ子
たくましい子

をしていました。



一年生は、それぞれ上の写真のような、画用紙に退治したい鬼の名前を書いたのをつくり、それに向かって豆(ボール)を投げつけました。



二年生は、黒板に貼り付けた鬼(の絵)に向かって、豆ならぬ丸めた新聞紙を投げつけ鬼退治をしていました



三年生です。人数が多いので豆まきも迫力があります。



四年生です。



「泣き虫鬼」「あきらめ鬼」「いたずら鬼」「わがまま鬼」「日よう日と土よう日におそくおきる鬼(これは私の中にもすんでいます)」「かたづけしな鬼」などいろいろな鬼がいるようです。子どもたちは自分の中の鬼をやっつけることができたいでしょうか? そんな中、世界中の誰もがやっつけたいのが「コロナ鬼」↓



文科大臣表彰

皆様既にご存じの方も多いかと思いますが、本校はこの度、「地域学校協働活動」の模範となったとして、本年度の文部科学大臣表彰を受けることになりました。文部科学省は受賞理由として

一 多くの地域住民と関わりを持ち、ふるさと岐宿を思う強い気持ちや生き方、人としての魅力に触れることで、自分たちの未来に「夢・憧れ・志」を抱き、ふるさと教育の充実につながっている。

二 地域と学校との連携・協働活動が計画的に行われている。

何にしても、このような賞をいただけたのは、日頃から子どもたちを見守り、本校教育活動に厚いご支援ご協力をいただいている保護者並びに地域住民の皆様のおかげに他なりません。心から感謝申し上げます。ありがとうございます。

今年度はコロナ禍の影響で、地域の方々と十分な交流活動を実施することができませんでしたが、一刻も早い収束を願うばかりです。その折はまた、よろしく願っています。

